

# 大空 —放哉だより—

第147号 2023.11.5

発行:小豆島尾崎放哉記念館 〒761-4106 土庄町本町甲 1082 ☎62-0037

## 第7回 尾崎放哉賞

【主催】自由律俳句結社『青穂』（代表：小山貴子）

【対象】一般の部・高校生の部

**締め切り：2023年11月30日（木）必着**

【問い合わせ先】

◎ホームページ <http://www.hosai-seiho.net/>

◎メールアドレス hosaisan581@gmail.com

◎TEL/FAX 06-6844-1719（小山貴子）

※作品募集要項・投句用紙は記念館にあります。

## 第23回放哉ジュニア賞

【主催】「放哉」南郷庵友の会

小豆島尾崎放哉記念館

【対象】郡内の小中学生および鳥取市立修立小学校

**締め切り：2023年12月15日（金）必着**

【問い合わせ先】

「放哉」南郷庵友の会事務局 62-0327

小豆島尾崎放哉記念館 62-0037



締め切り間近です。ご応募お待ちしております！

大正12年(1923)に会社を辞め、小豆島に来るまで各地を転々としていた放哉。同年11月、その最初に訪れたのは京都にある一燈園でした。妻・馨とも別居し、ここから放浪生活が始まりました。

期 間	大正12年11月23日～大正13年3月
動 機 きっかけ	これまで、借金や酒などで友人・親戚に迷惑をかけ、さらに病気を患った事で、借金返済がままならなくなった。事業を起こそうにも体力の限界を感じ、少しでも社会奉仕が出来ればと考え、寺男1として生きていくことを決意した。 一燈園を主宰する西田天香の著書『懺悔の生活』に共鳴し、放哉の求めていた「懺悔」4「報恩」5の目的をかなえるにふさわしい場所だと思った。
場 所	・京都市左京区鹿ヶ谷（現在は山科区四ノ宮柳山町へ移転） ・西田天香の主宰する修養道場・山の中腹にある木造の一軒家 ・道場もあれば、2階の座敷もある
在園者	・いつでも平均男女合わせて30人～40人 ・毎日、去る者あり来る者あり
1日の生活	朝5時起床→掃除→道場で約1時間の読経→各自その日の托鉢先へ→朝食をいただき、1日仕事をし、夕飯をいただく→帰園→約1時間の読経→就寝
仕事内容	・草むしり・障子張り・大掃除・引越しの手伝い・炭切り・薪割り・便所掃除・広告配りなど
一燈園を 去った理由	朝鮮に居る時に肺を患い（左湿性肋膜炎）、肉体労働が堪えていた。



日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		
●放哉だより発行日 □記念館休館日 □資料館休館日						

- お寺に雇われて、雑用仕事をする人
- 人々の中心になって全体をまとめること
- 他人の考えや行動に、心から同じように感じる
- 神様仏様の前で罪を告白し、悔いて改めること
- 恩返しすること
- 知識を高め、人格を磨くこと